

# 病院勤務医師の長時間過重労働の 改善に向けて一日本学会議の提言

2011年9月27日

## 1. 診療報酬体系の改善

加算された診療報酬が、負担軽減が必要とされる診療科の医師増員や医師個人のモチベーションを高める対応に効果的に使われるしくみを制度化する

## 2. 労働基準法、労働安全衛生法の遵守

病院は法を遵守し、病院勤務医師の長時間過重労働の防止に努め、国はコンプライアンスを高めるための方策をとる

## 3. 住民の意識向上

住民には、医療提供体制のしくみ、病院の利用、適正受診、また医師の職務に対する理解を深める

地域においては、良好な医師患者関係と地域医療を支えるための啓発運動を住民が主体的にすすめる、医療についての意識の向上をはかる

そのために必要な情報提供などの支援事業を基礎自治体は行う

## 4. 医師・医療界の取組み

ワークライフバランスの重要性を認識し、上記1. ～ 3. の推進に努める

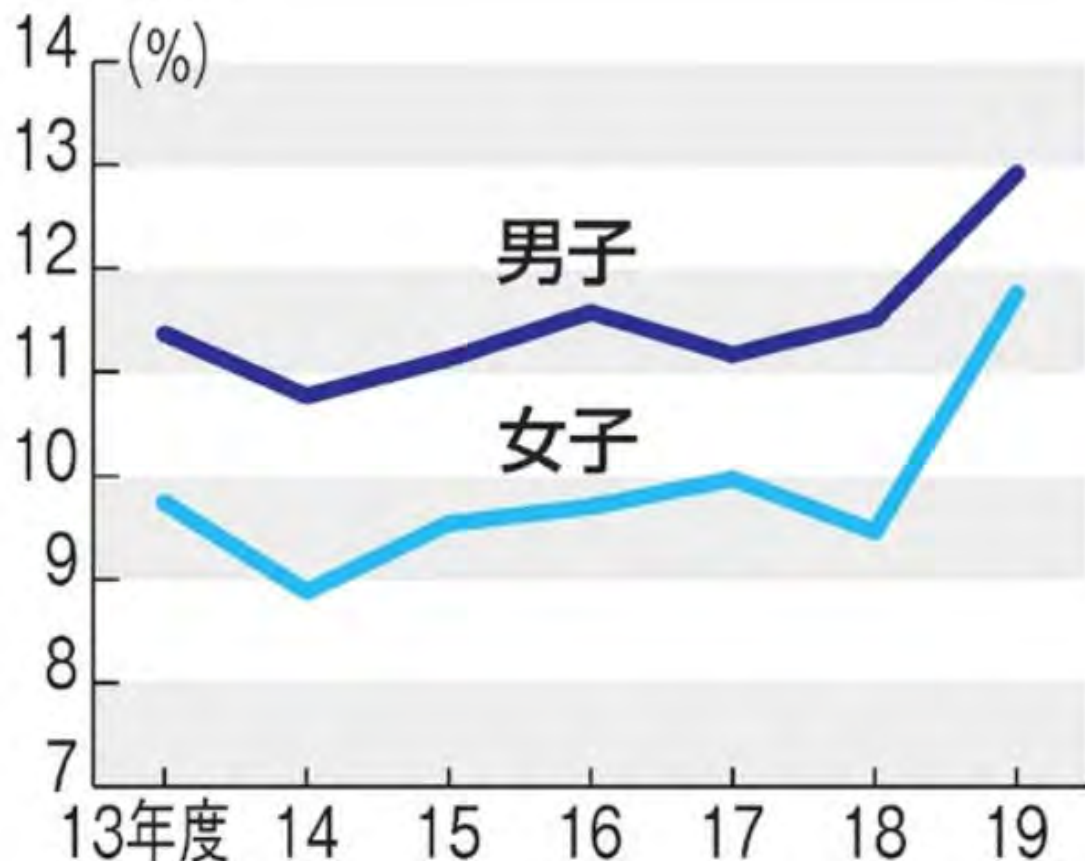
# JAMPは以下を求めます。

1. 今春の医学部入試において、全ての大学に公正で透明性のある入学審査を求める。
2. 男女の勤務時間が過労死レベルである残業1000時間を超えないよう、医療環境の早急な整備を求める。
3. 医師の育成には約10年を要する。男女とも健康を守り、妊娠・出産・子育て・介護等と両立できる、医師の育成プログラムの整備を求める。

# JAMPは以下を求めます。

4. 現在、医師が行っている業務のうち、診療科や医師個人に偏っている業務や責任を、複数医師、非常勤医師やコメディカルとの共働によって軽減する措置体制をとること；タスクシフトおよびタスクシェア  
例) 当直やオンコールの地域シェア、書類作成や検査・診断の業務シェア、医療と地域保健行政の連携等
5. 大学教授や病院管理職、医師会・学会理事の女性割合をすぐに30%以上に増やすこと。
6. 各大学に女性の包括的な健康の調査研究および支援に関する講座を設けること

# 医学部入試の男女別合格率推移



2019年度合格者の割合  
男子: 12.92%  
女子: 11.76%

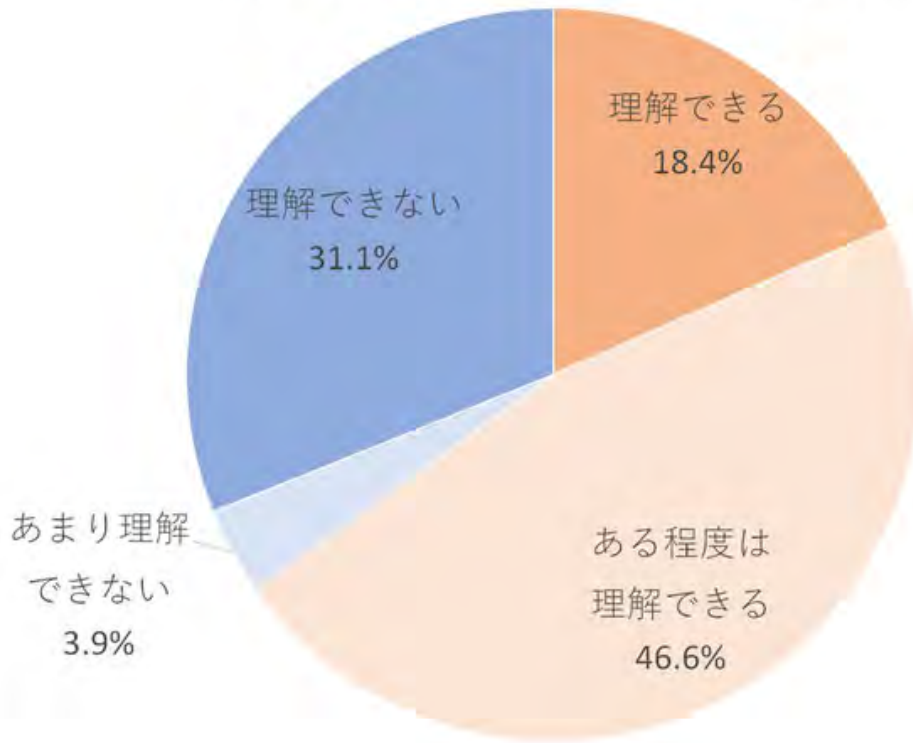
女子の合格率が1割を超えたのはこの7年間ではじめて  
男子の方が約1.10倍高い

東京医科大学  
2018年度: 男子9.04%、女子2.91%  
2019年度: 男子21.79%、女子26.38%

19年度は朝日新聞の調査で78大学が回答。  
13~18年度は文部科学省まとめ

# 東京医科大学入試での女子一律減点 に関するアンケート調査

東京医大の入試において  
女子を一律減点していることについて



2018年8月に医師103名に  
アンケート（エムステージ）

医学部に入学する女性の数を  
制限することを

18.4%が「理解できる」、  
46.6%が「ある程度は理解  
できる」と回答し、

「理解できない」「あまり理解  
できない」という意見を大きく  
上回る結果に。

引用:「東京医科大学入試での女子一律減点に関するアンケート調査」(エムステージ)

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000025.000019504.html>

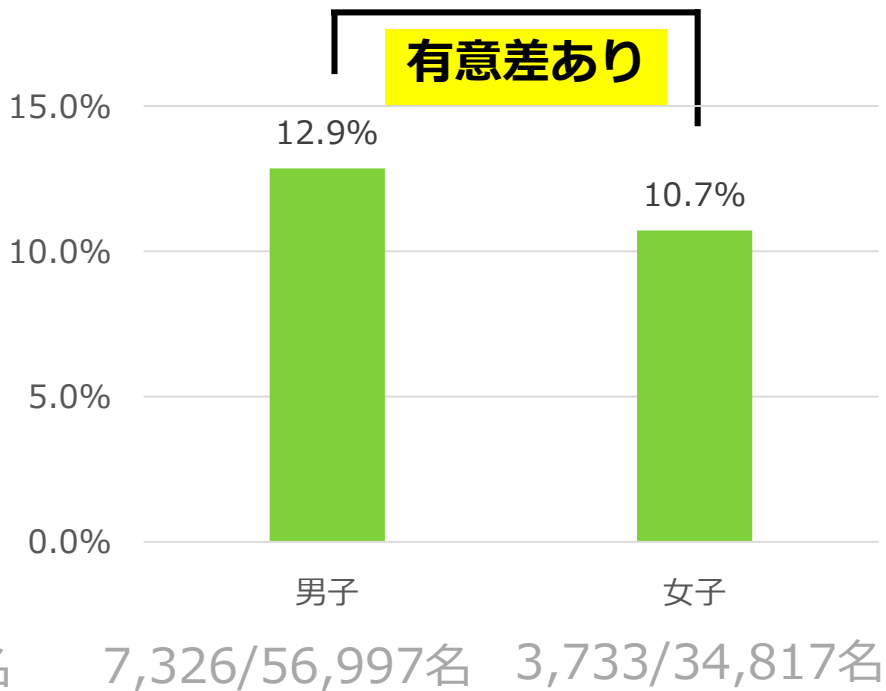
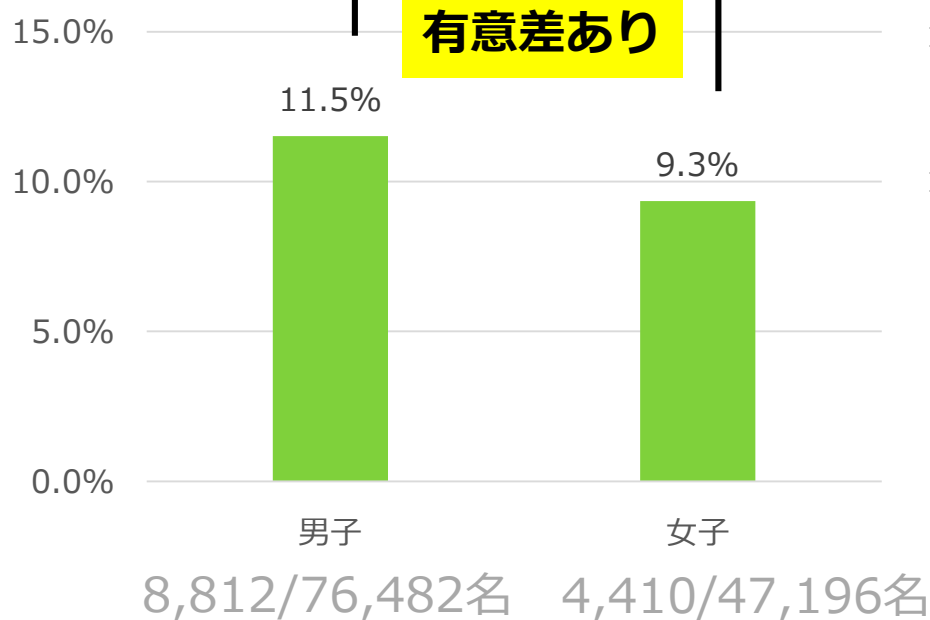
# 2018年度 医学部合格率男女比較

全医学部  
(東京女子医科大学を除く)

不正を認めた9大学 (東京医科大学、昭和大学、順天堂大学、北里大学、日本大学、岩手医科大学、金沢医科大学、神戸大学、福岡大学) + 東京女子医科大学を除く

$P < 0.01$

$P < 0.01$



# 2018年度 医学部受験者・合格者 実数と比較検定 (東京女子医科大学を除く全医学部)

	合格者数	不合格者数	合計	合格率	
男子	8,812	67,670	76,482	11.5%	
女子	4,410	42,786	47,196	9.3%	
合計	13,222	110,456	123,678	10.7%	
カイ二乗検定	男子学生と女子学生で合格・不合格についてχ <sup>2</sup> 検定を行ったところ有意であった (p<0.01)。この結果から、医学部合格率には男女差が存在するといえる。				
CHISQ.TEST					
p値					2.19×10 <sup>-33</sup>
有意水準					0.05

男子学生と女子学生で合格・不合格についてχ<sup>2</sup>検定を行ったところ有意であった (p<0.01)。この結果から、医学部合格率には男女差が存在するといえる。

# 2018年度 10大学以外医学部 受験者・合格者 実数と比較検定

10大学とは、2018年12月に不正な取り扱いを認めた9大学  
東京医科大学、昭和大学、順天堂大学、北里大学、日本大  
学、岩手医科大学、金沢医科大学、神戸大学、福岡大学  
+ 東京女子医科大学

	合格者数	不合格者数	合計	合格率
男子	7,326	49,671	56,997	12.9%
女子	3,733	31,084	34,817	10.7%
合計	11,059	80,755	91,814	12.0%

カイ二乗検定

CHISQ.TEST

p値  $6.10 \times 10^{-22}$

有意水準 0.05

男子学生と女子学生で合格・不合格について $\chi^2$ 検定を行ったところ有意であった ( $p < 0.01$ )。この結果から、不正を認めていない大学でも医学部合格率には男女差が存在するといえる。



# 例：順天堂大学の合格ライン

医学部の入試不正は順天堂大学が「女子がコミュニケーション能力が高い」から、北里大学が「女子は体力が不足だ」からと「医学部の学問の立場」にあるまじき事由を挙げた

